

令和5年度 第1回 宗像市文化財保護審議会議事録

(要旨)

期日：令和5年7月21日（金）

時間：10時30分から

会場：海の道むなかた館 講義室

出席者		事務局	
会長	西谷 正	課長	白木 英敏
委員	伊崎 俊秋	係長	山田 広幸
委員	國生 知子	技師	太田 智
委員	竹川 克幸		
委員	宮元 香織		

1. 開会あいさつ

2. 前回議事録の確認【事前配布資料3】

3. 議事録の作成方法について

○事務局

要点を記録する方法で議事録を作成する方法をとりたい。

（異議なし）

4. 議事

[報告]

1) 令和4・5年度文化財保護事業について【事前配布資料4】

○委員

埋蔵文化財の事前協議の試掘確認調査件数30件のうち、試掘調査と確認調査の数は。

○事務局

確認調査が25件、試掘調査が5件である。

○委員

田熊石畑遺跡歴史公園の入園者数はどのようにカウントしているのか。

○事務局

田熊石畑遺跡村づくりの会のボランティアが毎日、午前2回、午後2回の計4回定点観測している。

○委員

池田桜古墳の内容は。

○事務局

墳丘は直径30m位。石室の規模も13～14mとかなり大きい。
6世紀から7世紀の築造と想定される。

○委員

池田桜古墳は今後どのような調査を行うのか。

○事務局

6月に測量調査をし、その後、発掘調査を実施したい。
国庫補助事業の可能性を含め、福岡県と調整中。

○委員

宗像氏貞の墓地の文化財としての価値は。

○事務局

墓地と石塔が市の史跡に指定されている。毎年2月に承福寺と宗像大社が合同で墓前祭を実施している。

○委員

図書館おける郷土資料の公開はどのようなものか。

○事務局

郷土史家2名の寄贈を受けた図書を公開する。

○委員

「世界遺産沖ノ島検定」の内容は。

○事務局

初級はHP上で受けている(1,500人位)。合格率は40%を切るくらい。
初級に受かった人が上級試験を受けることができる。
受験者に関するデータは40、50代が多く、県外は東京や北海道もいる。
そのほか、地域学芸員や歴史観光ボランティアの会員が応募している。
上級合格者は、認定証の発行、神宝館の入館料が1年間無料になる。
合格者はおそらく2割くらいだろうと思われる。

○委員

資料の事業内容の記載について、補助事業、単費などの区分を反映してもらえると参考になる。

2) 市指定天然記念物「依岳神社いちょうの木」について【事前配布資料6】

3) 市指定有形文化財（建造物）「八所宮本殿及び拝殿」について【事前配布資料7】

○会長

壁板の交換で古い材はどうしたのか？

○事務局

腐朽が激しいためすべて交換した。

4) 県指定天然記念物「光岡八幡宮の大クス」について【事前配布資料8】

○委員

樹木の診断や樹勢回復の方針は誰が決定しているのか。

○事務局

樹木医がおこなっている。

5) 大雨における文化財の被災状況について【当日配布資料1】

○委員

イヌマキそのものの倒木はあったのか。

○事務局

今回イヌマキそのものの被害はなかった。

○会長

神社には社叢があるが、これは指定対象にはならないのか。

今後調査をしてもいいのではと思う。

[報告]

1) 令和5年度文化芸術活動事業費補助金申請状況について【事前配布資料5】

1. 鐘崎・地島地区での漁師の大峰講の調査

○委員

補助金の申請団体として市民公益活動団体とあるが歴史ボランティアはコミュニティ活動をしているから市民公益活動団体のか。判断基準はあるのか。

○事務局

条例で市民公益活動団体の要件が規定されており、条件を満たした団体が市の市民活

動・NPOセンターに登録している。

歴史ボランティアも要件を満たし、登録している。

○委員

申請内容の謝金に関する事項について、謝金が発生するならアドバイザーなどと呼ぶ場合だろう。

○事務局

募集要項には基本的に講演会の講師に対する謝金と解されている。

聞き取り調査の話し手に対する謝金は想定していない。

○委員

謝金について出すべきだという意見ではないが、社会情勢の変化が激しい中、手土産程度など、今後、検討する可能性があってもいいと思う。

○事務局

田中委員からは、他の事例を参考に審議するよう意見があった。

事務局としても無形民俗文化財の通例に準ずるという形で、申請内容の謝金支出には条件を付したいと考えているがいかがか。

(異議なし)

2. 宗像大社みあれ祭大島陸上神幸用具整備事業

○委員

みあれ祭大島陸上神幸用具整備事業には、大島小と大島学園が明記されているが、同じことか。

○事務局

小中学校を合わせて大島学園と呼んでおり、修正する。

5. その他

○委員

海の道むなかた館地域学芸員の会員数と活動内容について。

○事務局

むなかた館の展示ガイドボランティアで92名が活動している。

館内の活動が主に地域学芸員で運営委員会を作り、月例会を開いている。

展示解説や体験学習の指導を行っている。

○委員

審査や資格はあるのか。

○事務局

養成講座を実施しており、修了者が地域学芸員となる。

○委員

補助金申請のあった、歴史観光ボランティアと地域学芸員の会員は重複しているか。

○事務局

重複しているケースが多い。

○委員

歴史観光ボランティアは市から別の補助金が出ている団体か。

○事務局

所管は商工観光課。収入として、観光協会から案内所運営、他補助金のほか、ガイド料1回2,000円がある。会員数は約100名で、北九州市に次いで大きい観光ボランティア団体である。

○会長

海の道むなかた館の地域学芸員は市主催の研修のほか、自主的に勉強をされておりボランティアとしては人数が多い。一方で奈良県の橿原考古学研究所のボランティアは、後継者が少なくなっている。このような状況の中でここは全国的に素晴らしいと思う。

○委員

宗像郷土館の史料とむなかた歴史クラブの生徒数について。

○事務局

宗像郷土館の史料は宗像高校敷地内の四塚会館に保管されている。昨年、郷土館の史料を用いて中高生と一緒に調べ、ポスターを作成し、展示をおこなった。生徒は宗像中学校、宗像高校、市内の高校生がおり4名ほどの参加があった。

○委員

文化財関係補助金の今後の見通しについて。

○事務局

今回審査いただいた文化芸術活動事業費補助金は、現在、文化スポーツ課が所管しているが、今後、地域伝統行事などは、文化財部局に移行する可能性がある。その場合は、文化財保護審議会に諮った上で内容を精査したい。